



拾石訓誨義塾

— 教育にかけた人々 —

皆さんは「拾石訓誨義塾」という学校を知っていますか？おそらくほとんどの方はご存じではないと思います。この学校は日本で三番目のろう者（聞くことなどに障がいがある方）のための学校として、明治31年に京都・東京に次いで、塩津村拾石の地に設立されました。

設立の中心人物は、地元の木俣峯吉さんという方で、娘のかよさんがろう者であったことから、私財をなげうってろう者の教育の学校を始めたのでした。塾長は竹谷学校（現塩津小学校）で校長を務めた成瀬文吾先生。当時60歳を超えていましたが、設立にあたっては東京盲聾学校へ赴いて教育方法を学んでいます。

生徒5人で始まった拾石訓誨義

塾は明治32年9月、成瀬先生が病で急死したことにより存続の危機に立たされました。しかしながら、関係者の懸命の努力により翌33年、拾石から豊橋に移転し、豊橋盲聾学校と改名して新たなスタートを切りました。現在は、愛知県立豊橋聾学校として、地域におけるろう教育の拠点となっています。

9月2日まで博物館で開催している企画展「塩津の歴史」では、拾石訓誨義塾の建物復元図や木俣峯吉さん、成瀬先生など教育に力をそそいだ先人に関する文書などを展示しています。ぜひご覧ください。



豊橋聾学校正門前のレリーフ（右上が成瀬先生）

見えてきた！
リュウグウの姿

6月27日午前9時35分、3年半にわたる航海の末、小惑星探査機はやぶさ2が小惑星リュウグウに到着しました。現在リュウグウの上空20キロの地点で今後の観測に備えています。

距離20キロといえば、五井山から渥美半島の蔵王山を望む感じでしょうか。晴れた日には、山頂にある風車がよく見えます。標高250メートルの蔵王山の上に、直径約90メートルのリュウグウが浮いているのを想像すると、その近さと大きさが実感できて心が躍ります。

はやぶさ2が撮影した写真を見ると、リュウグウは赤道部分が峰のように張り出していて、大きなへこみがあります。表面には角ばった岩が散在していて、10メートルを超える岩塊もゴロゴロ。着陸地点を選ぶのが大変そうですね。

生命の素は隕石に乗って？

地球からの観測により、リュウグウは炭素質コンドライトという種類の隕石に近い物質でできていると考えられています。生命の海科学館には、アエンデ隕石とマーチソン隕石という2つの炭素質コンドライトが展示されていますが、なかでもマーチソン隕石は、アミノ酸が宇宙でも

非生命から作られることがあるのだと、世界で初めて証明した隕石です。内部から糖や70種類以上のアミノ酸が発見されており、それらが熱で分解されたり壊れたりすることなく地球に届くことを体現しています。生命を生み出す素となった材料である有機物は、40億年以上前にアエンデ隕石やマーチソン隕石のような黒い塊に乗って地球にやってきたのかもしれない。惑星科学の最先端では、その可能性が真剣に議論されています。はやぶさ2の今後の観測に期待が集まります。がんばれ、はやぶさ2！



はやぶさ2が撮影した
リュウグウ

6月26日12時50分頃撮影。
(C) JAXA, 東京大, 高知大,
立教大, 名古屋大, 千葉工大,
明治大, 会津大, 産総研

生命の海から

館長
山中敦子

生命の海科学館 ☎ 66・1717